

5年度決算で経常損失を計上した9法人

| 法人名 | 令和6年度2次評価（一部抜粋） | 指摘事項等への対応や検討状況 |
|---------------|---|---|
| 愛媛県文化振興財団 | ①5年度の財務状況は、赤字幅が縮小したものの、11期連続の赤字となった。引き続き赤字縮減に努めること。 | 施設管理事業においては、 <u>県民文化会館の指定管理者(コンソーシアム)の構成員である㈱エス・ピー・シーと緊密に連携し、施設の管理運営を行うほか、県、指定管理者、レストラン運営事業者で毎月ミーティングを実施し、短いスパンで課題を共有・改善策検討を行うことで、施設利用者数の増加やMICE誘致など施設利用件数の増加に向けて取り組んでいる（誘致営業上の課題共有や予約調整手続きの改善、自主事業による集客と施設PR方法の検討など）。</u> また、文化事業においては、「おんがくdeあそび事業」・「おとぎと魔法の劇場」・「EHIME×CULTURE」の入場料の見直し、 <u>公演数の変更及びマルシェ出店料有料化により収益の増加を図った。</u> |
| | ②愛媛県県民文化会館の指定管理者について、6年度から(株)エス・ピー・シーとのコンソーシアム体制となることや、会館内のレストランの営業が再開したことから、県やレストラン運営事業者と連携して、施設の利用者数増加に向けた取組みの検討を行うほか、長年赤字が続いているため、事業規模や内容の中長期的な見直しについて抜本的に検討を行い、経営基盤の強化に努めること。 | 令和7年度は、 <u>㈱エス・ピー・シーと連携し、営業ツールも積極的に活用しながら、会館利用や中規模大会の誘致、平日の会議室利用、真珠の間宴会のPR等、営業活動の強化を図るとともに、仮予約案件の早期申込書提出を徹底するなどの予約キャンセル防止策を強化することにより施設利用料収益の増加を図り、経営基盤の強化に努めていく。</u> |
| | ③今後とも、各種広報媒体を活用した効果的な情報発信により、各種事業への参加者や施設利用者の更なる拡大を図ること。 | ホームページ、X、instagram、noteの活用に加えSNS、広告の実施などにより、各事業への参加者増に努めた。また、 <u>会館パンフレットをより親しみやすく、わかりやすいものに更新したほか、主催者向けの営業ツールとして活用するため、新たに会場の収容人数や利用料金、備品等を一覧にした「会議・研修・セミナー」、「展示会・各種イベント」、「各種パーティープラン」の3種類のリーフレットを作成するなど、主催者・利用者のリアルなニーズを捉えながら会館の情報発信や施設利用者の更なる拡大を図っている。</u> |
| 松山観光コンベンション協会 | ②引き続き、関係機関と連携し効果的な事業実施に努めること。 ③引き続き、効果的な愛媛・松山の認知度向上に努めること。 | 協会の自主性・自立性を高めるためにも公益事業・収益事業とも収入の確保に取り組む。 <u>愛媛県や他市にも協力を仰ぎ、物産事業やMICE事業において連携し、効果的に事業を実施する。</u> |
| 愛媛県国際交流協会 | ②地域日本語教育事業や日本語学習支援事業では、試行的に市町や企業等から講師等に係る経費の一部を負担金として徴収し、新たな財源の確保に努めながら事業を実施していることは評価できる。 | 令和6年度も、日本語教育を実施するにあたり、引き続き <u>試行的に市町から一部負担金を徴収し、新たな財源の確保に努めながら事業を実施した。</u> |
| | ③国際交流センターの仮設建物からの移転について、5年度末に仮設建物の所有権の無償譲渡を受け自己所有の物件となっており、緊急に移転しなければならない状態でないものの、長年にわたってその検討が進まない状況が続いている。今後の方向性について、関係機関との協議・調整に努めること。 | <u>国際交流センターの仮設建物が、令和5年度末に自己所有となったことから不動産登記を行った。移転については、移転先の目途がたっていないことから、県等からの情報収集に努めている。</u> |
| 伊方原子力広報センター | ①概ね過年度の黒字は解消されているものの、単年度での収支相償を満たそうとすると、資金繰りに苦慮するおそれがあることから、中長期的な視点で収支の均衡を図ることが可能となる特定費用準備資金等の活用を検討すること。 | 特定費用準備資金（新公益法人制度における公益充実資金）については、将来の特定の事業等に係る費用に充当するための積立で、当該事業等の実施時期・内容・所要額（積立限度額）・積算根拠を明確にし、情報開示することが要件とされ、将来の単なる備えとしての積立は要件を満たさない。当センターは、黒字が発生した場合、これを解消する程度の赤字（公益目的事業の増加）を出して収支相償を図っており、 <u>黒字又は赤字の額は数万円から数十万円の少額で、資金繰りが困難となることはないものの、計画的に積み立てるような余裕もない。</u> 令和7年度からの新公益法人制度では、法人が柔軟に活動できるよう、 <u>従来の収支相償（黒字を2年間で解消）から中期的収支均衡（黒字を5年間で解消）に改正されており、少額の黒字についてはこのシステムの中で適切に対応していきたい。</u> |
| | ②引き続き、原子力及びその平和利用に関する知識の普及啓発を行うため、ホームページ等を活用した効果的な情報発信に努め、各種事業への参加者や施設利用者の増加を図ること。 | |

| 法人名 | 令和6年度2次評価（一部抜粋） | 指摘事項等への対応や検討状況 |
|-------------------------------|---|--|
| えひめ 農林漁 業振興 機構 | ①今後、法人が保有する基金の運用国債を買い替えたことにより、運用益の減少が見込まれることから、経費の節減及び新たな財源の確保に努めること。 | 基金の運用国債を令和4年度に買い替えたことによる運用益の減少に対応するため、その運用益を原資に実施している農林漁業後継者助成事業について、5年度に事業内容を精査し、見直した上で、より効果的で安定的な事業の実施に努めている。 |
| | ②引き続き、農林漁業に関心を持つ人材が相談や研修を受けやすい環境を整えることで、農林漁業の担い手の確保や育成を図ること。 | 農林漁業の担い手の確保、育成を図るため、引き続き、専任の就農相談員、後継者育成班及び林業労働力確保支援センターが、関係団体等と連携して、農林漁業合同就農相談会を開催するとともに、県外の就業相談会等にも積極的に参加するなど、新たに農林漁業への就業を希望する人材が相談等を受けやすい環境づくりを展開することにより、幅広い就業支援を推進した。 |
| | ③引き続き、効果的な情報発信に努め、新たな担い手確保や制度利用者の増加を図ること。 | 電子メール、ホームページ、SNS、新聞・ラジオ広告等を活用した多種多様な広報を展開するとともに、新規就農事例集やポスター、パンフレット等を関係先に配布し、積極的に啓発活動を行うなど、効果的な情報発信に取り組み、就業希望者の掘り起こしに努めた。 |
| 愛媛の 森林基 金 | ①森林基金事業や緑の募金事業の更なる推進のため、緑の募金収入や賛助会費収入の安定的な確保に努めること。 | 各種事業の計画的かつ積極的な展開に努めるとともに、企業へのダイレクトメールを行うなど、緑の募金や賛助会費の確保に努めた。 |
| | ②職員の大半が県職員（兼務）であるため、自律的な経営の観点から、人的支援の必要性を検討のうえ、配置の適正化に努めること。 | 当基金の財政状況とも関連するため、引き続き内部で検討していきたい。 |
| | ③ホームページでの情報発信等の取組みに加え、マスコミへの積極的な情報提供など、他の媒体の活用も含め、効果的な情報発信に努め、森林の果たす役割や森林整備の重要性の一層の普及啓発や、各種事業への参加者の更なる拡大を図ること。 | ホームページに各種事業の申し込み機能を追加するとともに、X(旧ツイッター)やInstagram等を活用した情報発信に努めた。 |
| えひめ 海づくり 基金 | ①低金利の影響により、基本財産運用益が低迷している一方で、経常費用は横ばいという近年の傾向は継続しており、特定資産を取り崩して事業を実施している状況が続いていることから、中長期的に安定した法人運営が確保されるよう、事業規模や内容の中長期的な見直しを検討すること。 | 6年度の財務状況は、保有している定期預金や投資有価証券を切り替えることにより、当期経常増減額が5年度の-31,119千円から-9,929千円と赤字額を大きく縮小することができた。引き続き中長期的に安定した法人運営を確保できるよう、適切な財産管理に取り組む。 |
| | ②引き続き、関係機関との連携や、他の媒体の活用も含めた効果的な情報発信に努め、栽培漁業の必要性等について普及啓発を図ること。 | 令和6年度には、長浜漁業協同組合や愛媛県漁協下灘支所等で、小学校、行政、組合と協力し放流活動を実施することができた。また、種苗の放流実績や種苗放流の様子をホームページで公開し、栽培漁業の認知度の向上に努めた。引き続き、関係機関との連携し、効果的な情報発信や栽培漁業の必要性等について普及啓発を図る。 |
| 愛媛県 動物園 協会 | ②今後とも各施設と連携した取組みにより、収支の改善に努めること。 | 令和6年度も引き続き有料ガイド事業を行い774千円の収入があった。また、マーケティングプロジェクトチームが開発した新商品の売上は2,310千円で、いずれも収支の改善につながった。また、ジップラインオープン3周年記念イベントに協力するとともに、とべもりエリア限定スイーツの販売促進に努めるなど集客を図った。 |
| | ③オンライン会議等により、他の動物園と動物の飼育等に関する情報を交換し、ノウハウを共有するなど、職員の動物に対する知識等をより一層向上させる方法の検討を行うこと。 | 令和6年度は、オンラインも含めて日本動物園水族館協会が主催する技術研修会及び各種専門部会22会議へ参加し、飼育や治療技術向上のための情報交換を行った。 |
| | ④悪天候時に来園者数が減少しているため、雨天時の動物園の楽しみ方をSNSで発信するなど、新たな情報発信の方法を検討し、来園者数の拡大に努めること。 | 従来行っている季節に合わせた投稿等に加え、雨天や降雪などの時にしか見ることのできない動物の様子を投稿し、来園者誘引につながる情報発信に努めている。 |
| | ④引き続き、利用者のニーズを踏まえた研修や相談を実施するとともに、各種広報媒体を活用した効果的な情報発信に努め、各種事業の実績の更なる拡大を図ること。 | 各種広報媒体を活用した効果的な情報発信に努め、各種事業の実績の更なる拡大を図っている。 |
| 愛媛県 暴力追 放推進 セン ター | ①引き続き、寄附金の受入れや積極的な賛助会員の獲得及び経費削減を図ること。 | 寄附金の受入れや積極的な賛助会員の獲得及び経費削減を図っており、利用者のニーズを踏まえた研修や相談を実施している。 |
| | ②引き続き、利用者のニーズを踏まえた研修や相談を実施するとともに、各種広報媒体を活用した効果的な情報発信に努め、各種事業の実績の更なる拡大を図ること。 | 各種広報媒体を活用した効果的な情報発信に努め、各種事業の実績の更なる拡大を図っている。 |